

(様式1)

自己評価表

愛媛県立松山中央高等学校

学校番号(24)

教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人間との触れ合いのなかで、思いやりの心と豊かな情操を育てる。 ・一人一人に応じた学習活動のなかで、創造する力と表現力を育てる。 ・規律ある生活習慣のなかで、つよい意志とすこやかな体を育てる。 	重点目標	豊かな人間性の育成と確かな学力の向上を目指します。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性	規範意識の高揚（生徒）	基本的生活習慣の確立のため、8時15分登校し学習に臨む姿勢を正す。朝の挨拶運動を実施し、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間性の育成と中央高校の生徒であることの自覚を高める。	B	生活指導週間中、ホームルーム単位で朝の挨拶運動を実施することにより、今年度のマニフェスト（数値目標）である気持ちの良い挨拶ができる生徒100%へ向けて意識を高めさせることができた。	PTA役員と教職員の合同交通指導の意見では、多くの生徒は挨拶や会釈ができていますが、時間がギリギリに登校してくる生徒ほど周りが見えにくくなり、挨拶もできなくなっていると指摘されている。交通マナーの向上についても指導の徹底を図っていきたい。
	部活動の活性化（特活）	部活動加入率90%以上を目指し、継続的に活動に参加できるようにする。	A	年度当初の加入状況が91%で、本年度の目標を達成していた。また、年度後半でも転退部がある中で新たな入部等もあり91.1%の加入率を示し、年間通して目標を達成した。	各部とも継続して意欲的な活動が行われており、今後も活動の意義や目標を明確にしながら、さらに自主的で計画的な活動ができるよう啓発していく。
		県総体出場230名以上を目指し、より高いレベルで活躍できるようにする。	A	本年度県総体出場数251名で、数値目標を達成することができた。さらに全国大会へは3団体、四国大会へは7団体が出場した。また、県大会・四国大会での上位入賞を果す部活動が増加した。	多くの部活動が県総体への出場を果たし、その中で、より上位の大会への出場を目指す部活動も増加している。今後も高い目標を持ち、意欲的な活動ができるよう継続的な指導を行う。
		全国大会出場5団体以上を目指す。	A	体育・文化・生産の各部門と部活動以外の活動も含めて、合計10の団体が全国大会に出場し、学校の活性化に多大な貢献を果たした。	意欲的な活動が継続的に行われるよう各部活動に啓発するとともに、より高い目標の達成が実現できる環境づくりに努める。
	読書活動の充実（図書国際）	生徒一人当たりの年間読書冊数10冊以上を目指す。	B	2学期末現在で、一人当たり平均6.7冊である。昨年度の同時期の6.5冊と比べると、微増してはいるが、3年生の読書冊数の伸びない3学期を考慮すると年度末までに目標の10冊達成はやや難しいと思われる。3学年27クラス中、すでに目標を達成したクラスが2、達成の可能性が高いクラスは、6クラス程度である。	今年度もより具体的・短期的目標として、年度初めに、「ひと月一冊」「年間10冊クラスで達成」をお願いした。昨年度の読書指導例をもとに、今年度は全クラスに個人別読書冊数表を作成し、クラス内での相互の読書冊数を「見える化」した。活用したクラスにおいては、読書に対する意識が高まり、読書冊数に結びついているようなので、来年度も改善を加えて実施していきたい。
	体験的・奉仕活動の充実（特活）	ボランティア活動や交流体験学習への積極的な参加を通して、奉仕の心と社会貢献への意識の高揚を図り、その充実度100%を目指す。	A	2年生の介護体験学習では各クラスが意欲的に交流を深めることができた。また本年度は、えひめ国体・えひめ大会の開催に伴い、多くの生徒が開閉会式や各種競技にスタッフ・補助員として積極的に関わることができた。	継続的に行っている活動の更なる充実を図るとともに、身近な地域への貢献を意識して各種ボランティア活動等への積極的な参加を促していく。
清掃活動の徹底（保健環境）	時間いっぱい心を込めて清掃するように美化委員会による呼びかけを定期的に行う。また、トイレ清掃はチェック表を用意して監督者に点検してもらう。	B	美化委員会で毎月の目標を決め呼びかけを行った結果、質の高い清掃ができる生徒が増えた。また、トイレ清掃はチェック表を用いて重点的に点検を行った。	次年度は自ら考えて清掃ができる生徒を増やしたいと思う。その方策を担当者と協力して課で考えたい。また、トイレ清掃では監督者により求める基準が違ったので課で定期的な点検してすべてのトイレがきれいな状態を保てるようにしたい。	

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立松山中央高等学校

学校番号(24)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
教育方針		<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人間との触れ合いのなかで、思いやりの心と豊かな情操を育てる。 ・一人一人に応じた学習活動のなかで、創造する力と表現力を育てる。 ・規律ある生活習慣のなかで、つよい意志とすこやかな体を育てる。 		重点目標	豊かな人間性の育成と確かな学力の向上を目指します。	
確かな学力	教科指導の充実(教務)	生徒による授業評価において、7.0以上の評価を目指す。	A	ほとんどの科目で8.0以上の高評価を得ており、全教科で目標を達成することができている。特に、「説明がわかりやすい」や「授業の内容はちょうどよい」などの項目で高い評価を得ている科目が多くなっている。	生徒が「分かる授業」、「主体的に取り組む授業」の実践を目指し、今後も指導方法の研究及び教材の検討等を行っていく。また、大学入学共通テスト及びアクティブ・ラーニング等への対応も検討していく。	
	学習習慣の定着(教務)	主体的に家庭学習に取り組み、1日平均3時間以上を確保させる。	B	3年生が4.1時間と目標を達成しているが、1・2年生が2.4時間と目標達成には至っていない。	宿題が多いため、復習や自主学習の時間がとれないという意見も頂戴したが、まずは生活時間等を見直させ、毎日3時間以上の時間をかけて、自ら進んで学習する習慣を身につけさせる指導を行っていく。	
	キャリア教育の充実(進路)	進路意識の高揚を図り、生徒の進路意識を高める。	B	進路に関する資料等の配布・提示、及び、「進路だより」の発行により、進路意識の高揚に努めた。	「進路だより」をさらに充実させ、ホームページにもアップしていきたい。	
		「学部・学科説明会」や「学部・学科研究会」等によって進路意識を高めるための活動を充実させる。	B	生徒の希望に応じた様々なジャンルの学部・学科の先生方を講師とし、説明会及び研究会を実施することができた。	1年次から進路目標を意識付けできるように、さらに充実した内容にしていくとともに、発展学習につなげられるような工夫を検討する。	
進路指導の充実(進路)	国公立大学合格150名以上を目指す。	B	センターなし推薦・A0入試で、国公立大学合格者が22名、センター有り推薦・A0入試で合格者38名、計60名が合格を果たしている。一般入試についても期待できる。	模試の成績向上がセンター試験、二次試験の成績向上につながっていく。模試対策を充実させる。面接、小論文、グループディスカッション等の指導もさらに充実させる。また、新共通テストについても対策をとっていきたい。		
開かれた学校づくり	P T A 活動の充実(総務)	P T A 総会において、保護者の出席率30%以上を目指す。	A	本年度のP T A 総会における保護者の出席者数は473名で、出席率は44.5%であった。過年度も良好な出席率であったが、本年度は特筆できる成果が上がった。特に、1年生は、63.3%という高い率であり、評価できる。	今後とも、ホームページの充実や各ホームルーム担任からの積極的な呼びかけ、各課・各学年との協働をもとにして、保護者の関心を高めていく。	
	保護者との連携・協力(総務)	「開かれた学校づくり」事業において、公開授業への参加者数、保護者による授業に御協力いただける講師の増加を目指す。	B	公開授業の参加者は、6月と10月を合わせて290名であり、昨年297名と同程度の参加人数となった。また、保護者による授業も、昨年度6名から8名へと増加した。	2学期の「公開授業」について、来年度は中学3年生にも参加してもらえるように、9月の運動会の代休日に実施予定である。また、本校の魅力を校外に発信するために、「保護者による授業」について卒業生などにも積極的に呼びかけを行い、連携を密にして多くの講師の方々に参加してもらえるようにしていきたい。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。